

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

訪問先	独立行政法人日本貿易振興機構
訪問日時	2025年11月21日(金)
訪問概要・目的	独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)を訪問し、社員の方々によるプレゼンテーションや講話を通して、日本と海外をつなぐ業務の実態について理解を深めるとともに、それを基に自身のキャリア形成について考える機会とする。
担当 CVS	岩波理桜
報告書作成者	北沢真歩
参加学生数	14人(内、1年生8人、2年生7人)
訪問結果	<p>今回の企業訪問では、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)を訪問し、JETROの歴史や理念、業務内容、さらに社員の方々の働き方について直接お話を伺う貴重な機会をいただいた。</p> <p>まず初めに、小島英太郎様より、JETROがどのような機関であるかについてプレゼンテーションをしていただいた。JETROは海外56カ国に76拠点、国内に49拠点の事務所を構えており、職員の方々は国内外の拠点で働くグローバルな環境に身を置いている。主な役割は、海外の投資家・企業と日本のスタートアップ企業や中堅・中小企業を「つなぐ」ことである。具体的には、海外展開を目指す日本企業への輸出支援や、日本の食品や食文化の魅力を海外に発信し、輸出拡大とブランド価値向上を目指すプロジェクト JFOODO など、多岐にわたる活動を行っている。日本企業と海外企業・投資家とのマッチングを促進し、日本経済の発展に寄与することを目的としており、これは営利を目的としない公的機関だからこそ実現できる理念であると感じた。また、小島様の入社理由からミャンマー駐在、仕事と修士課程の両立、中央大学での講義活動に至るまで幅広いキャリアについてもお話しいただいた。</p> <p>次に、二つのグループに分かれ、社員の方々に直接質問をする時間を設けていただいた。海外派遣については、年に一度行われるアンケートや公募、面接を通じて本人の希望が反映される仕組みがあることを伺い、直接社員の方からでなければ聞けない貴重なお話を聞くことができた。働き方については、ジョブローテーション制度が特徴的であり、約2~3年ごとに異なる部署へ異動し、新たな専門分野を学び続けられる環境が整えられている。そのため継続的な学習は欠かせないが、その分、大きなやりがいと刺激があると感じた。さらに、女性の働き方に関する制度も充実していることが話題に上がった。転勤が多い職場環境では、結婚や出産、育児と仕事の両立が難しいという印象を持っていたが、JETROではライフステージに配慮した配置やキャリア支援が行われており、その取り組みが評価され、「プラチナえるぼし」認定を取得しているという点が印象的であった。全体を通して、社員の方々それぞれの経歴や仕事に対する思いを伺うことができ、非常に実りのある時間となった。</p> <p>最後に伺ったお話の中で特に印象に残ったのは、人生をより充実したものにするためには、1日の大半を費やす仕事にやりがいを見いだせるかどうか重要であるという点である。また、学生のうちから関心のある分野に積極的に挑戦することの大切さや、小さな努力を地道に積み重ねることが信頼につながることで、さらに語学力だけでなく他者や異文化への好奇心を持つ姿勢が重要であるという助言もいただいた。これから就職活動を控える私たちにとって、どのようにキャリアプランを設計していくかを考える上で、非常に有益で貴重なお話であった。</p>

※訪問時の写真

